

令和4年8月26日開会

第743回むつ市教育委員会

参 考 資 料

報告第1号 1頁



報告第一号 参考資料



## 正津川小学校の学校規模の適正化(統合)について

### 1. はじめに

市教育委員会では、教育の地域格差の是正、教育環境の均一化、複式学級の解消を目的として、平成17年7月「むつ市学校統廃合計画」を策定し、合併前に点在していた極小規模校の統廃合を中心に取り組み、合併当初、小学校22校、中学校10校であった学校は、現在、小学校12校、中学校9校となっております。

また、文部科学省は、平成27年1月に約60年ぶりとなる「公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引」を策定いたしました。この背景には、全国的な少子化が続く中、小学校、中学校が過度に小規模化し、教育条件への影響が懸念されていることや、それに伴う課題がかつてよりも一層顕在化しているとの指摘があるほか、交通機関の発達により生活圏が拡大しているといった通学条件の変化も含めて考える必要があることから策定されたものであります。

市教育委員会では、この手引きの基準により平成28年度に「むつ市学校規模適正化に関する方針」を策定いたしました。

その中で、大畑地区においては、小目名小学校、関根橋小学校及び二枚橋小学校の大畑小学校への統合が完了いたしました。正津川小学校も完全複式の極小規模校となっており、統廃合の緊急度は高いと判断しているところであります。

これらを踏まえ、正津川小学校においては、平成28年6月、平成29年5月に保護者に対し学校規模適正化に関する説明会を行い、同年11月、平成31年1月、令和元年10月には地区での住民説明会を行っております。

説明会では、地域と合意のもとで統合を進めたいとの説明を行い、説明会でいただいた意見は今後の方針の参考とさせていただきます。

一方で、青森県が公表した「日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震」の発生による津波浸水区域の見直しにより、市内で最も津波等の影響を受けると予想される大畑地区において、学校施設の場所や在り方、今後の津波災害への対応等について検討する必要があり、正津川小学校についても喫緊の課題であると認識しております。

### 2. 児童数の現状と今後の推移

学年	学区外割合						次年度入学
	6年生	5年生	4年生	3年生	2年生	1年生	
学区内児童数	5名	4名	6名	5名	2名	3名	6名
大畑小入学者数	1名	2名	3名	4名	1名	1名	1名
正津川小入学者数	4名	1名	3名	1名	1名	2名	1名

※5年生には他の小学校に入学している児童1名あり。

正津川小学校児童数推移						
年度	2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5)	2024 (R6)	2025 (R7)	2026 (R8)
1年生(新入生)	1名	2名	6名	4名	3名	4名
2年生	1名	1名	2名	6名	4名	3名
3年生	3名	1名	1名	2名	6名	4名
4年生	1名	3名	1名	1名	2名	6名
5年生	4名	1名	3名	1名	1名	2名
6年生	0名	4名	1名	3名	1名	1名
計	10名	12名	14名	17名	17名	20名

※学区内の児童が全て入学するものとして推計。

### 3. 津波の影響について

正津川小学校については、新たな津波想定によると、地震発生から35分後に5.9メートルの津波の到達が予想されております。

正津川小学校は2階建てで、垂直避難を実施したとしても津波を回避できる高さではなく、児童が避難するには、学校から出て国道279号バイパス方面へ向かうしか手段がない現状となっております。

自動車等の移動手段があればよいのですが、それができなかった場合、学校裏の畑を通過しての徒歩又は走っての避難等が想定されますが、冬期の災害発生の場合など浸水区域外への避難が津波到達に間に合わない可能性も考えられます。

### 4. 今後の方針について

#### ○小規模校のメリット

- ①児童一人ひとりに目が届きやすく、きめ細やかな指導が行いやすい。
- ②学校行事などにおいて児童一人ひとりの個別の活動機会を設定しやすい。
- ③保護者や地域との連携が図りやすい。

#### ○小規模校のデメリット

- ①多様な考え方に触れる機会や学びあいの機会、切磋琢磨する機会が少なくなりやすい。
- ②運動会や学芸会など学校行事の集団教育活動に制約が生じやすい。
- ③グループ学習など多様な学習・指導形態が取りにくい。
- ④教職員が少ないため、経験、教科、特性などの面でバランスのとれた指導を受ける機会が少くなりやすい。
- ⑤3学級以下となると養護教諭や事務職員の配置が受けられない。

○文部科学省の手引きを参考とした市教育委員会の正津川小学校に係る判断

- ①今後も20名以下で推移し複式学級の解消には至らない。
- ②完全複式の極小規模校であり、統廃合の緊急度は高い。
- ③すでに、正津川地区では1/2の児童が大畑小学校に就学している。

○津波の影響を踏まえた判断

津波の到達予測を考えると、大規模な災害に襲われた際の正津川小学校児童の安全を担保することが非常に困難である。

大畑小学校も、5メートル以上の津波の到来が予想されているものの、学校裏の高台への避難や、間に合わなかった場合には3階への垂直避難で回避ができるものと思われる。

以上の実情を総合的に勘案し、児童の最善の利益と安全・安心を優先すべきとの観点から、まずは大畑小学校への統合を進めさせていただきたい。

※大畑小学校については、さらなる移転等についても検討する。

## 5. 統合時期について

- ①早期に統合することが望ましいと考えます。
- ②保護者及び地域の方々の理解が得られた時点での統合としたいと考えます。

## 6. 統合に向けた今後の取り組み

- ①統合が決定した場合は、大畑地区の校長会に働きかけ、お互いに連携を図り、児童がより多くの仲間と学び合う楽しさや意義を体験するとともに、多様な人間関係の中での協調性等をより一層身に付けていくことができるように、合同で授業や学校行事を行う「交流学习」を実施し、児童が環境変化に対応でき円滑に統合が行えるよう努めます。
- ②各校で進められている特色ある教育を引き継げるよう配慮します。
- ③児童の不安や動揺を最小限にするために、教員配置等様々な面でできる限りの配慮をします。
- ④教育課程編成や学校運営・教育方法などは、関係する学校間の協議結果を尊重します。

## 7. 統合後の大畑地区について

- ①大畑地区は小学校1校、中学校1校となり、大畑地区の全児童生徒が均一な教育環境のもとで学習できます。
- ②市が推進している小中一貫教育の更なる充実が期待できます。

- ③学校運営協議会（コミュニティ・スクール制度）が大畑地区全体で統一した方向性が見出しやすく、協議会の目的が最大限果たせるものと考えます。

#### 8. 統合後の通学手段について

- ①スクールバスでの通学とし、児童の通学の安全確保のため、バス通学の再編と有効活用を図ります。
- ②バス停は、利用児童の状況により調整いたします。

#### 9. 閉校後の校舎の利活用について

正津川小学校は平成元年度建設の校舎であり、閉校後も再利用は可能な建物であることから、今後、利活用を検討してまいります。

そのなかで、地域からの要望等がありましたら、優先して応えてまいりたいと考えております。



- 四戸町内会長 Q.これまでの説明会で「統合ありき」の印象を持った。  
子どもたちは地域の宝だが、統合に関しては保護者の考えが一番だと考えている。
- 工藤 A.今後、保護者と協議し、その後地域との協議を行う。十分な説明を心がける。
- 松本さん  
(保護者) Q.昨年実施した保護者アンケートの結果はどうだったのか。
- 工藤 A.両論あった。今後、説明会の場で提案について理解を求めていきたい。
- 松本さん Q.これまでも、津波のことは話してきた。「今さら」と感じる。
- 工藤 A.浸水区域の見直しにより、状況は大きく変わった。これまでに比べ危険度が著しく増大したため、今回の説明会・提案となった。
- 松本さん Q.大畑小でも垂直避難のあとどうするのか。
- 工藤 A.避難全体については市として今後説明会を実施する予定である。
- 木村さん  
(民生委員) Q.大畑小も正津川小も危険度は一緒ではないか。
- 工藤 A.緊急一時避難が可能かどうかという点においてまったく異なる。
- 木村さん Q.避難後屋上で過ごすことはできない。
- 工藤 A.二次避難については、今後全体の避難計画の中で検討していく。
- 木村さん Q.統合のビジョンが見えず、行政コストの削減にしか感じられない。
- 工藤 A.子どもたちの命を守るための統合である。
- 木村さん Q.地域全体も含め、教育委員会で検討してほしい。
- 伊藤部長 A.重要なことであり、防災担当部署においてしっかりと検討し、地域住

民への説明がなされるものと認識している。

- 四戸町内会長 (要望) (大畑・正津川地区の) 避難場所についてしっかりと考えてほしい。
- 松本さん (要望) スクールバスだけではなく、路線バス通学として、子どもたちと大人が乗車できるようにして、社会体験を広げるなどの工夫をしていただきたい。
- 川端元町長 (要望) 大川小学校のような事態は避けなければならない。こうした防災面での観点と、複式解消が見込めないという教育面での観点とがある中、子どもたちの将来をどう守るのか、しっかりと考えていただきたい。
- 木村さん Q.資料に「大畑小のさらなる移転等についても検討」とあるが、旧市内の学校と統合することもあるのか。
- 工藤 A. それはまったく考えていない。

※概ね理解が得られたように感じられた。今後、保護者との話し合いの中で「子どもたちに望ましい環境を提供するための統合」とするための方策を示し、不安・要望を聞き取り、案を改善したい。

また、大畑・正津川両校長と連携し、具体化を図りつつ、地域へも発信していきたい。

